

環境未来都市選定基準(評価項目と評価・採点方法)

「環境未来都市」構想のコンセプト中間取りまとめ(以下「コンセプト」という。)の実現に資する都市を選定する際に使用する基準。

1. 事務局

評価項目	評価・採点方法	評価・採点の視点
①コンセプトとの整合性		
(a.将来ビジョンの策定スタンスの妥当性)		
ア. 環境及び超高齢化対応の観点が盛り込まれているか。	○×	
イ. バックカスティング(※1)とフォアカスティング(※2)の両面で考えているか。	○×	
(b.実施主体の妥当性)		
産民学・自治体のコンソーシアム(※3)を形成しているか、又は、形成しようとしているか。	○×	
②取組内容の具体性		
将来ビジョンの実現に必要な具体的な取組方針及び取組内容が記載されているか。	○×	・抽象的でないこと ・取組の数が極端に少なくないこと

2. 環境未来都市評価・調査検討会

評価項目	評価・採点方法	評価・採点の視点
①将来ビジョン		
(a.魅力度)		
市民の目線で「暮らしたいまち」、「活力あるまち」と感じることができるか。	A~E	・社会的連帯の回復が志向されているか ・生活の質の向上が志向されているか ・過度に現状にとらわれず、バックカスティングの発想が有効に機能しているか
(b.必然性)		
地域の自然的社会的条件等の特徴を踏まえたものであると認められるか。	A~E	・地理的特性、人口・人口構成、産業構造、都市構造、歴史、伝統、文化等が十分に活かされているか(フォアカスティングの発想が有効に機能しているか)
(c.適切な課題・目標設定と価値創造性)		
コンセプトの実現に向けた、環境、超高齢化対応等に関する課題・目標が適切に設定され、その課題の解決と目標達成の過程で環境価値、社会的価値、経済的価値が総合的に創造され続けるか。	A~E	・3つの価値を総合的に捉えて、その創造に資するよう効果的な課題・目標設定がなされているか ・どのような指標を立て、何を、いつまでに目指すのかが具体的であるか ・長期にわたって、3つの価値が総合的に創造され続けるか ・3つの価値のすべてが一定以上の水準にあり、それぞれの価値も創造され続けるか ・需要拡大、雇用創出、国際的課題解決力の強化に資するか
②取組内容		
(a.包括性・戦略性)		
将来ビジョンの実現に相当程度寄与する包括的かつ戦略的な取組となっているか。	A~E	・将来ビジョンの実現に必要なと認められる取組が盛り込まれているか(将来ビジョンが絵に描いた餅になっていないか) ・社会経済システムイノベーションの実践の場として相応しいエリアが設定されているか ・時間的に急ぐものから取り組むといったビジネスの視点を持ち合わせた戦略的な取組となっているか ・政策課題の解決策として新たな規制・制度改革等に関する国への提言があるか
(b.事業性・熟度)		
自立的・自律的なモデルが構築される見込みはあるか。またその熟度は高いか。	A~E	・当該都市における取組全体として、将来的に、補助金依存から脱却し、利益を継続的に生み出す仕組みがあるか ・普及展開のターゲットがある程度明確化されているか ・取組内容の熟度が高いか(先端的な技術・システム等の社会経済システムイノベーションに係る事業の内容の具体化、ポトルネックの明確化、人材の育成等は図られているか)
(c.本気度)		
自らが責任を持って取り組む意思はあるか。	A~E	・地域独自の税制・財政・金融上の支援措置等があるか ・過度に「国に依存する」「補助金をもらう」といった発想になっていないか
③体制		
(a.実効性・熟度)		
実効ある取組を継続的に実施することができる実施主体となっているか、又は、そうなる見込みが高いか。	A~E	・構成員の多様性が確保されているか ・構成員間の役割分担・責任分担が明確化されているか ・部局間の縦割りによる弊害が生じないような工夫があるか ・取組の継続的な運営(安定的なガバナンス)が担保されているか ・利益の再配分をすることができるか ・住民を始めとしたステークホルダーの理解と協力を得ることができているなど手続きを含め、熟度が高いか
(b.プロジェクトマネジメントの着実な実施)		
環境未来都市全体の経営的なマネジメントと各プロジェクトの進捗管理的なマネジメントを共に実施できるか。	A~E	・プロジェクトマネジメントの方法論が有効であるか ・事業を途中で中止することを判断することができ、そのリスクについて正確に評価することができる体制になっているか ・強力なリーダーシップを発揮することができるプロジェクトマネージャーが確保されているか、又は、その確保に向けた方針が妥当であるか ・プロジェクトマネージャーに必要な権限が付与されているか
(c.都市間連携・ネットワークの有効活用)		
国内外の都市間連携・ネットワークを有効に活用し、自らの取組の更なる高度化、創出した成功事例の普及展開の加速化を実現できるか。	A~E	・都市間連携・ネットワークが、今後、有効に機能する見込みであるか ・国内外のベストプラクティスを取り込むこと、自ら創出した成功事例を普及展開することについての方策は有効か
①~③の総合的な評価	上記評価項目の総得点	-

評価項目	評価・採点方法	意見
持続可能な経済社会の実現への寄与		
我が国全体の持続可能な経済社会の実現に相当程度寄与することが見込まれるか。	定性評価	

(※1)バックカスティング: 将来の在るべき姿を描き、その実現のために必要なことを具体化すること

(※2)フォアカスティング: 過去・現在の状況を将来に延長して、必要なことを具体化すること

(※3)産民学・自治体のコンソーシアム: 産民学・自治体が連携して、一体となって取組を推進することができる体制のこと